

目に見えない大切なもの

新型コロナウイルス感染症の蔓延は、このコラムを書いている4月末時点では、いまだに終息に向かう気配は明確になっておりません。そんな中、ふと外を見ると、季節は進み、自然はいつもと同じ歩みが続いています。屋島は新緑で山笑い、ハナミズキやツツジが薄紅色や赤や白の可憐な花をつけています。正に「年年歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず」です。

人類の歴史は、感染症との戦いの歴史でもあります。古くは天然痘やペスト、20世紀初頭のスペイン風邪の大流行、最近でもSARSなど新しい感染症が流行して、結核も再興しています。そして今、新型コロナウイルスという目に見えない強敵と戦っています。特に、医療現場で懸命に奮闘されている関係者の皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

目に見えないものと言えば、サン＝テグジュペリの「星の王子さま」の有名な一節を思い出します。「ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない」というキツネが王子さまにいった言葉です。ウイルスという見えない敵は克服していかなければなりません。その後には、みんなで協力して乗り越えたと振り返られるように、「絆」や「愛情」、また、親子や家族で過ごした貴重な「時間」など、目には見えない大切なものがあつたことを今から意識しておきたいものです。

感染拡大を防ぐために意図的に人と人との距離を保つ「社会的距離戦略」を取ることも勧められています。本来、人間は気の合う仲間と集まり、スキンシップも交えながら社会を作ってきました。そのため、社会的距離を常に保つことは、ストレスともなり得るものですが、感染症予防にとってはとても重要なことですのでご協力をお願いします。

一日も早くこの非常事態が収束して、人間本来の心の通った社会が取り戻せることを祈ってやみません。

